



末永雅雄名誉教授に文化勲章

蘭田 香融

本学名誉教授末永雅雄先生は、多年にわたる考古学への貢献により、このたび文化勲章を受章された。かねて予想されていたこととはいえ、まことに喜ばしい限りである。関西大学としても初めてのことであり、先生の受章は全学挙げての喜びである。

先生が考古学の研究を志すようになったのは、少年の頃、父君に博士の指導の下に奈良県の石舞門を叩き、日本考古学の草分けといわれる浜田耕作博士に師事。同和二十五年から四十五年まで在職の第2線、端緒の緒をこころよく

教えられて近所の狭山池の堤で須恵器の破片を拾い集めたのが始まりだ。家に持ち帰って土器片を洗っていると、偶然ながらものがあつたりして、とうとう病みつきになってしまった。大正の末年、京都大学の考古学研究室の門を叩き、日本考古学の草分けといわれる浜田耕作博士に師事。同和二十五年から四十五年まで在職の第2線、端緒の緒をこころよく



学長就任にあたって

大西 昭男

大学とは、先ず何よりも、知ることの喜びを見出すべき場所である。そして大学生活とは、知ることの喜びを見出すべき時間である。

この大学を大事にして行きたい。重ねて学長に選ばれて私が心期していることは、このことに尽きる。

ここに学ぶ人たちに少しでも多くものを知ってもらいたい。知ることの喜びを少しでも深く知ってもらいたい。そしてその喜びを、生涯かけていっそう大きく育てて行ってもらいたい。大学の自治、学問の自由はそのためにこそ認められた権利である。

この秋、文化勲章受章の栄に浴した関西大学名誉教授末永雅雄博士が少年の日に、学問の道に志された時、お母上が「家の内の財は尽きるとも、身の内に積んだ財は尽きない」とお励ましになったという。高度経済成長を経て、経済大国となった今日の日本にあっても、同じことが言えるのではない。いや、国富み家栄している時にあってこそ、わが身の内の財をこそかえりみるべきではないか。

知ることの喜び

関西大学でそれを見出し
生涯かけて育ててほしい

日本人の一人ひとりが、そして日本という国が、内に積みたくわえた心の財があつてこそ、わが身の内の財をこそかえりみるべきではないか。

育成に努め、考古学研究室の基礎を固められた。この間、北山、千塚等、多くの現地調査に陣頭指揮をとられた。考古学の調査は文字通り寝食を共にする共同調査であるが、先生は学問上の指導に当たらなれど、日常生活のことは先生に任せ、先生に叱られて大男が手放して泣き出すことさえあった。それでいて叱られた教えた先生は、一生これを徳としている。

先生は、先生は先生としての名人であつた。こんな経験を共有する教員たちが、こんなに考古学界の第2線、端緒の緒をこころよく

先生は、先生は先生としての名人であつた。こんな経験を共有する教員たちが、こんなに考古学界の第2線、端緒の緒をこころよく

先生は、先生は先生としての名人であつた。こんな経験を共有する教員たちが、こんなに考古学界の第2線、端緒の緒をこころよく

先生は、先生は先生としての名人であつた。こんな経験を共有する教員たちが、こんなに考古学界の第2線、端緒の緒をこころよく

は、大学で学んだ甲斐がなかったということになる。何ものにもとらわれることなく、ただ知ることの喜びを知らずして大学生生活を送るということは不幸なことである。それは一生の損失である。ものを知るといふこと、そして知ることの喜びを喜ぶことは生涯かけての利得である。何を求めるか。それはさまざまである。学問もまた芭蕉翁のいうところの「不易」の一面を持つとともに「流行」の一面を持つ。わが関西大学もまた「国際化」といふ「情報化」といふ「開かれた大学」といふ旗印をかかげて時代の要請に対応しつつある。教えるものも学ぶものも、今や目まぐるしいまでに進展してやまない高度機械化文明の波を乗り切つて行かざるをえない。押し寄せて来る文明の潮流をいたすらに恐れるものは潮流に呑みこまれ押し流されてしまふ。

わが関西大学が早くから「情報処理センター」を開設し、「情報処理」教育を全学部にあつて実施しているのも、文明の潮流に押し流されることなく、どんな狂瀾怒濤をも乗り切つて行く「文明」の戦士を一人でも多く育てたいと念じてのことである。と同時に、美しいものを美しいと感じ、尊いものを尊いと感じることのできることを持った「文化」の使徒を一人でも多く育てたいというのが私たちのもう一つの念願である。教室で、演習室で、あるいはコンバやゼミ合宿で、私たち教師の一人ひとりが、そのような念願をこめて、学生諸君の魂と向き合っているのである。

知ることの喜びを知ったのはあの時だった。そして魂と魂と向き合うことの尊さを知ったのもあそこだった。とやがて振り返って懐しく思つてもらえるような大学であつたい、と私は念願する。私自身が関西大学専門部第2部文学科国漢専攻科に学んだ戦中から戦後にかけての三年間を、いまそのように懐しく思っている。私が学生として享受することのできた関西大学の貴い伝統を、いまは教師として、学長として、後に続く学生の一人でも多くもの伝へ残して行きたい、と思う。

真理を愛するところを伝えたい。自由を尚ぶところを残したい。

どのような権力にも外圧にも抗して正義を守る気概を伝えたい。自分の自由を守るという小さな正義にとどまらず、何びとへの抑圧をも許さない大きな正義を尚ぶところを残したい。

関西大学がある限り、そこには真理と自由と正義があると、いつの世にも言えるような、不易の大学であらう。

（文学部教授）



現在、地球の上空には多数の人工衛星が打ちあげられている。いつの間にか私達はこの衛星の出現に驚きを感じなくなってきた。この上空は将来どのように変化するだろうか。二十一世紀を待つまでもなく、私達の周辺には様々の変化が起こりつつある。その中の一つは都市化現象である。田園が後退し、都市が拡大、再開発されてゆく、即ち、大阪を中心とした半径数十キロメートルの大都市圏が建設されようとしている。未来都市の夜空に、衛星の数はさらに増し、星々の輝きは薄れてゆくであろう。▼本年一月に訪れたカトリック・ルバン大学の学生達は、飛鳥の自然を賛美し、豊と蒲団の合理性に驚嘆し、到着第一夜の深更、冬の寒さにもかかわらず、水浴を楽しんだという。良質な日本の水は世界でも類いまれなものである。今、その水を私達はふんだんに使っている。▼ルバンの学生達の関心事の一つは、進行する都市化現象の中で如何にして人間らしい生活を確保するか、であった。彼等が注目したのは、企業の労務管理と個人の家庭生活との関連性、仕事のストレスの解消法、都市の環境衛生などの問題であった。彼等は都市の中心部や地下街のきれいな空気に感嘆し、電話一本で旅行中の難問が次々に解決されてゆくのを見て、日本の社会はオルガニクスされていると結論した。▼都市は善と悪の二面性を持っている。人間の仕事による文化、芸術、科学技術の最高のものが都市にある。また、犯罪、堕落、喧嘩の集積場でもある。▼精神面において、都市は砂漠である。その中のおアシで、私達は生ける生命の水を汲み取ることができるであろうか。

（F・Y）

大学人事



野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

国家試験合格者

十月一日付で新就職者が多いのと発表された。
▼一般教養試験 坂本隆雄
▼教育研究科 木田 和雄
所長 木田 和雄
十月一日付で新就職者が多いのと発表された。
▼就職部
経済学部教授 安喜 博彦

角山経済学部教授に

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

Table with 2 columns: 専攻 (Specialization) and 合格者 (Qualified) with counts for various departments.

() 内の数字は本学出身者を示す

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

野々村元工学部教授に
勲四等瑞宝章
野々村元工学部教授は、昭和六十四年度の大学博士課程前期課程・修二課程の学位試験に、九月二十一日に筆記試験、十二月二十一日に研究科ごとの面接試験を実施され、その結果、表の通り、二〇一名の受験者の中から、三名の合格者が発表された。

創立一〇〇周年記念事業

募金終了に当たって

関西大学創立一〇〇周年にあたり、昭和十八年十月に開始した募金活動は、今年三月三十一日をもって終了しました。この間、学内外から多くの賛助が寄せられ、総額一億二千万円を突破しました。この成果は、この事業の成功に大きく貢献しました。今後、この資金は、大学の発展のために活用される予定です。

経済・政治研究所

開設30周年を迎えて

経済・政治研究所は、昭和三十三年に開設された。この間、学内外から多くの賛助が寄せられ、総額一億二千万円を突破しました。この成果は、この事業の成功に大きく貢献しました。今後、この資金は、大学の発展のために活用される予定です。

一九八九年入学願書を発売

一九八九年の入学願書を、十一月五日から発売します。願書の申し込みは、十一月十五日までです。詳しくは、各学部のパンフレットをご覧ください。

学生諸団体の行事

学生諸団体の行事は、十一月から十二月にかけて行われます。主な行事として、学生生活実態調査、学生生活実態調査、学生生活実態調査などが行われます。

学生生活実態調査に協力

学生生活実態調査に協力していただく方を募集しています。調査結果は、大学の発展のために活用される予定です。詳しくは、各学部のパンフレットをご覧ください。

第2部一講時制に

次年度より完全実施

関西大学は、次年度より第2部一講時制を完全実施します。これは、学生の学習環境を改善し、教育の質を向上させるための取り組みです。詳しくは、各学部のパンフレットをご覧ください。

世界人権宣言

四十周年に際して

世界人権宣言は、一九四八年に採択された。この間、学内外から多くの賛助が寄せられ、総額一億二千万円を突破しました。この成果は、この事業の成功に大きく貢献しました。今後、この資金は、大学の発展のために活用される予定です。

「黒菱山の家」年末年始の利用申し込み

21日から受け付け中

「黒菱山の家」は、年末年始に利用できます。申し込みは、十一月二十一日から開始されます。詳しくは、各学部のパンフレットをご覧ください。

学生寮の上位年次生

入寮募集について

学生寮の上位年次生入寮募集について、十一月から十二月にかけて行われます。詳しくは、各学部のパンフレットをご覧ください。

法学研究所公開講座

法学研究所の公開講座は、十一月から十二月にかけて行われます。詳しくは、各学部のパンフレットをご覧ください。

[illegible]

